

## 第6回角田市長期総合計画審議会会議報告書

1. 日時 令和3年8月6日（金）午後3時00分から午後5時00分まで

2. 場所 角田市役所301会議室

3. 出席者（別添出席者名簿のとおり）

（1）角田市長期総合計画審議会委員	21名
（2）策定本部	6名
（3）事務局	6名
（4）角田市第6次長期総合計画策定支援業務委託業者	1名

4. 会議内容（概要）

### 1 開会

### 2 会長あいさつ

本日は、重点プロジェクトについて、皆様のご意見を伺ってまいります。この重点プロジェクトは、縦割りの計画に対して横串を通していく、そして、角田市の今後10年間の大きな看板の政策となるものであり、一番大事な議論にさしかかっております。是非とも、皆さんの忌憚のないご意見をお聞かせください。よろしくお願いいたします。

### 3 市長あいさつ

本日は、お忙しい中、ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。加えまして、皆様方におかれましては常日頃より、市政運営にご理解とご尽力を賜り深く感謝申し上げます。

また、前回の審議会後に開催させていただきました重点プロジェクトに係るグループ討議においても、急な開催にもかかわらず、多数の委員の皆様にご出席を賜り、具体の取組みについて様々なご意見を頂戴いたしまして、誠にありがとうございました。

第6回目となる本日は、重点プロジェクトに掲げる基本目標や数値目標、施策をまとめましたので、これについて事務局よりご説明させていただきます。

この重点プロジェクトの内容につきましては、「市民力」、「地域共生」、「地域資源フル活用」という重点プロジェクトの3つのテーマごとに、市職員で構成するプロジェクトチームを立ち上げまして、グループ討議での皆様のご意見や、これまでの第6次長期総合計画策定に係る調査・分析結果、各種市民参画の取組みにより得られた市民の皆様の声など、様々な要素を考慮したうえで、角田市の現状も踏まえ、職員の持てる力を注ぎ込みまして、今後10年間に角田市に必要な施策等を検討したものです。

第6次長期総合計画に示す本市のまちづくりの核となる重要な議題となりますので、委員の皆様には、是非とも、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げまして、開会にあたってのご挨拶とさせていただきます。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

○審議会への市長の同席について

市長あいさつ後、柳井会長より、審議会への市長の同席について、以下のとおり発言があった。

〔柳井会長〕

今回の議事は、「第6次長期総合計画に掲げる重点プロジェクトについて」ということで、非常に大事な内容となる。通常であれば、ここで市長は退席されるが、前回の審議会において「市長の所見をうかがうため、市長の同席を求める」旨のご意見をいただいていたこともあるので、角田市長期総合計画審議会条例第2条に基づき、市の将来目標及び基本的施策を明らかにする基本構想に関する事項を調査するため、審議会の決定として、黒須市長にはこのまま出席していただき、市長としての考えなどを伺いたいと思うが、いかがか。

⇒ 委員からの異議はなく承認されたため、審議会より市長の同席が求められ、市長は会議終了まで同席した。

#### 4 報告

○ 活動経過報告【資料「角田市第6次長期総合計画策定経過」】

事務局（齋藤企画調整係長）より、資料に基づき説明を行った。このことに関する意見等はなかった。

#### 5 議事

角田市長期総合計画審議会条例第5条第1項の規定に基づき、柳井会長が議長となり議事進行を行った。

(1) 第6次長期総合計画の策定に関する意見への回答（案）について【資料1】

事務局（齋藤企画調整係長）より、資料に基づき説明を行った。

⇒ このことに関する意見等はなく、この議事について承認された。

(2) 第6次長期総合計画に掲げる重点プロジェクトについて

【資料2-1】【資料2-2】【資料2-3】

事務局（木村まちづくり政策課長、齋藤企画調整係長）より、資料に基づき説明を行った。また、市長より都市像について以下のとおりコメントがあった。

〔黒須市長〕

これまで議論を重ねる中で醸成されてきたものを踏まえて、都市像を「市民力咲き誇る。角田市✿」、副題として「安心して、いきいきと、誇らしく暮らせるまち」を提案させていただいた。

市民力は、市民の皆さんがプレイヤーとして持てる力を発揮し、その力によって角田市が前進していくというものであり、この計画の中に一貫して流れているものと考えている。その市民力が、様々な場面で花が咲くように発揮されるイメージで「咲き誇る」という表現とした。また、「誇る」という言葉がとても大事であると考えており、市民の皆さんが誇れるという意味も込めている。

最後の花のマークについて、これは短い文章の中でより内容を連想させ強いインパクトを与えるためのものである。

副題の「安心して、いきいきと、誇らしく暮らせるまち」については、まちづくりの基本的なところであろうということと考えたものである。

これはあくまで皆さんに議論していただくためのたたき台のため、皆さんの思いも加えていただきたい。

事務局の説明及び市長のコメントの後、都市像と3つの重点プロジェクトごとに委員に対し意見等が求められ、その内容は以下のとおりであった。

## ■「都市像」について

〔柳井会長〕

「市民力咲き誇る」を「咲き誇る市民力」としなかった理由について伺いたい。

〔黒須市長〕

両方のパターンを検討した。また、「咲き誇れ市民力」や「輝け市民力」など、より活動的なフレーズも候補として挙げたが、都市像として考えた場合、落ち着いた印象を与えるフレーズがよいと考え、このようなかたちとなった。その辺りの言葉の表現や言い回しについても、皆さんのご意見を伺いたい。

〔安藤副会長〕

市民力というのはこれからのキーワードであると思う。市民みんなが力を出していかなければ乗り越えられない時代であるため、都市像としてよい言葉であると思う。

副題の「誇らしく暮らす」について、「誇らしく」であれば、その後続く言葉は「生きる」の方がよいと感じた。また、「安心して」という言葉でも十分伝わるとは思うが、“みんなが”というニュアンスが伝わるとより良いと感じた。

[黒須市長]

「生きる」という言葉も検討したが、「暮らす」という言葉の中に様々な営みが含まれていると考え、この表現にした。「生きる」の方が能動的であるとも感じたので、検討したい。

「みんなで作る」といったフレーズを使用した案もあった。「ともに作る」や「みんなで作る」といったフレーズを入れたいという思いはある。

[砂金委員]

副題は常に表示されるものなのか。

[木村まちづくり政策課長]

副題は基本的にはセットで表示するものと考えている。ただし、文章の中で使うなど、文章が長くなると弊害がある場合などは、割愛することも考えられる。

[加藤委員]

「市民力咲き誇る」に続く「。」は非常にインパクトがあり、「市民力咲き誇る」という言葉を強調する意味において、重要な位置づけであると感じた。ただ、読み上げる場合は、すっと読んでしまうように感じるので、他に「市民力咲き誇る」を強く表現する方法はないものか。花のマークについてはよくわからない。

[高橋委員]

「咲き誇る」という表現は、花がいっぱい咲き誇り、今が最高だというイメージとしてもとれるが、これから咲くというイメージの表現はないものか。

[砂金委員]

花のマークについて、都市像に入れてしまうと、角田市の市章と勘違いされてしまうのではないかと注意してもらいたい。

[遠藤(恵)委員]

この都市像を見たときに、元気な大輪の花が咲いているという印象を持ったが、元気な方ばかりではないため、小さな花やこれから咲こうとしている蕾など、多様性が伝わるようなニュアンスが加わると良いのではないかと感じた。

[齋藤(善)委員]

我々はこういう議論をしているため、市民力などの言葉を理解できるが、一般の方々がこの都市像を見たときに、伝えようとしている意図が伝わり、受け止められるかどうかが大変であると思う。そういう意味で、市民の方々に意見を聞くなどして確認・検証した方がよいのではないかと。

[木村まちづくり政策課長]

都市像に関して、市民の方々がどのように捉えるかといった検証については、総合計画の策定期限もあることから、現状のスケジュールの中では難しいと考える。それに近い方法がないか改めて検討はさせていただく。

#### ■重点プロジェクト①

「将来を見据え人を育み、活かすまちづくり【市民力】」について

[堀米委員]

市民力を活かすということを第一の重点プロジェクトに挙げたことは、これまでと最も違うところであると感じている。具体的な内容にまで踏み込んでいるということで、さらに期待できると思う。ただ、人を育てるということは簡単ではなく、10年間でそこまでできるかという点で非常に難しいと思う。都市像にもあるとおり、市長の強い思い入れもあると思うので、市が一体となってこれに向かっていけるかどうかは鍵になると思う。

そこで、【資料2-3】重点プロジェクト①の施策の内容1(3)の「主体的な活動を行う市民の育成・支援」の取組みの中に、(仮)市民活動支援センターの設置が掲げられているが、これと併せて、市民活動支援基金というものを創設してはどうだろうか。これは様々な自治体で取り組んでおり、市民が主体的に活動する事業に対して助成金を出すというもので、その運営については、各自治体が工夫している。ふるさと納税を原資として基金を設置し運用しているところが多い。幸いなことに角田市はふるさと納税が潤沢なため、3千万円程度あれば多くの団体が様々な自主的活動ができるのではないかと考える。そういったことを呼び水として、市民活動が活発になるかたちをつくってはどうかと考えたので、提案したい。

[木村まちづくり政策課長]

活動していただくためにはある程度の財政的支援が必要になると考えており、【資料2-3】重点プロジェクト①の施策の内容1(2)の「市民提案型まちづくり事業への助成・支援」は、基金という表現はしていないが、そのような財政的支援を想定している。ご提案のあった基金の創設については、財政的な話もあるため、ここでの約束はできないが、検討する必要があると考える。

[大槻財政課長]

あくまでも基金はその事業を執行するために財源の一部を補填するものであり、執行については市の会計を通すということが前提となる。【資料2-3】重点プロジェクト①の施策の内容1(2)の「市民提案型まちづくり事業への助成・支援」の文中、「市が費用の一部を補助」という部分に包含されてくるものとする。取組みを実施していく中で、財政的に基金が必要であれば、全体的なバランスを考慮しながら検討していきたい。

[毛利委員]

【資料2-3】重点プロジェクト①の施策の内容1(3)の「主体的な活動を行う市民の育成・支援」の取組みの中に、「芸術・文化活動の推進」とあるが、田園ホールを有効活用していくためには、地域を盛り上げようと活動している人材の育成や支援など、もっと具体的な内容に踏み込む必要があるのではないかと感じた。また、【資料2-3】重点プロジェクト①の施策の内容3の「女性の活躍推進」に関連して、男女共同参画についても、もっと具体性を持った内容にすべきではないかと感じた。

[木村まちづくり政策課長]

芸術・文化については、人が重要であるという考えから、重点プロジェクト①の市民力に関する施策として記載したが、その具体的な事業等は、次回以降の審議会で議事とする予定の基本計画(案)の中で審議していただくこととなる。

女性の活躍については、角田市には女性が活躍できる場面はたくさんあるが、活躍するための仕掛けが足りないという認識のもと、そのような仕掛けをつくらなければならないとの思いを込めて、男女共同参画ということではなく、「女性の活躍推進」を施策とした。この件についても、具体的な内容については、基本計画(案)としてお示ししたい。

[柳井会長]

障害を抱えた方に関する施策は、日本では地域共生に含まれると思うが、北欧でピアリングなどを行っているところ、障害を抱えた方の活躍といった位置づけとなる。この重点プロジェクト①の市民力に関する施策として、障害を抱えた方の活躍に関する内容を盛り込むことで、より先進的な計画にブラッシュアップできるのではないかと感じた。

## ■重点プロジェクト②

「ともに生き、活かし合うまちづくり【地域共生】」について

[安藤副会長]

都市像は、企業の理念と同じで、すべての者が理念に沿って行動することが重要であり、その理念に基づいて様々な活動が行われる。先ほど事務局からの説明にあった施策の具体的な内容などの詳細な部分については、時代とともにどんどん変化していくため、状況に応じてフレキシブルに対応していかなければならないため、まずは理念に向かってすべての人が行動することが重要であり、その理念が最も重要であると考えます。

地域共生も市民力も大事なキーワードであると思う。先ほど遠藤(恵)委員から多様性の話があったが、やはり色々な人が、この地域で共に暮らしていけるということが大事であり、それを持続していくためには何が必要かということ議論していくことで、大きな部分でみんなが一致するのではないかと思います。

[柳井会長]

角田市の最大のウィークポイントは、この地域共生だと感じている。この分野にしっかりと取り組むことが、安心して誇りを持って暮らし続けるという部分にダイレクトに影響してくると思われるので、是非とも力を入れて取り組んでいただきたい。

## ■重点プロジェクト③

「地域資源を活かすまちづくり【地域資源フル活用】」について

[堀米委員]

【資料2-3】重点プロジェクト③の基本目標に、農業に関する文章が「ICTを活用したスマート農業技術の導入支援」しかないため、もう少し農業をどのように位置づけていくのかという方向性を盛り込んでいただきたい。

また、農業に関する数値目標を具体的に設定してはどうか。私の記憶では、角田市の農業産出額のピークが昭和51、2年頃で100億円を超えていた時期があり、その頃のイメージから角田は農業が盛んだと言われるようになったが、現在はその3分の1程度になっている。これが全国的な傾向かというとは決してそうではなく、その頃からさらに産出額を伸ばしている地域もある。東北地方では秋田県横手市や宮城県登米市などが300億ほどと非常に高く、全国的にみると宮城県都市市では800億円を超えている。そのような現実から目をそらし、文言だけで物事を捉えているように感じるため、もっと具体的に踏み込んだ計画にしていきたい。

[木村まちづくり政策課長]

基本目標については、もう少し角田市の農業の方向性について含めたかたちを再度検討させていただきたい。数値目標については、あくまで重点プロジェクトにおける目標であり、基本計画において、もう少し細かいK P I（重要業績評価指標）という指標を設定し、進捗管理を行うこととしている。その中で、農業に関するK P Iもいくつか設定されるため、現在策定作業を進めている基本計画の内容を踏まえて、重点プロジェクトにおける基本目標の裏付けとなり得る指標があれば、数値目標として設定することも検討したい。

[堀米委員]

私としては、あくまでもこの重点プロジェクトの数値目標として位置づけていただきたい。第5次長期総合計画後期基本計画のK P Iの達成状況を見せていただいたが、残念な内容である。目標設定がどこにあるのかということで取り方は全然違うため、重点プロジェクトの数値目標に掲げた上で、基本計画の中でK P Iの達成を目指すというかたちが良いと考えるため要望したい。

農業政策は大きく変化しており、昔は農家世帯も多く、それぞれの世帯の生産・収入を増やすという具体的な取組みであったが、現在は農家数が減り、いかに生産性を上げていくのか、新規参入者を増やすかということに方向性が大きく変わってきているため、発想を変えて目標を数値化してもらいたい。

[木村まちづくり政策課長]

検討させていただく。

[齋藤(勤)委員]

【資料2-3】重点プロジェクト③の施策の内容7の「災害に備えた安全・安心なまちづくり」の文中に、「防災・減災のハード対策を計画的に進めます」とあるが、江尻排水機場にみられる農業サイドの防災基準に基づいた現状の排水対策について考えていただきたい。江尻排水機場の計画そのものが農地を基にした計画でしかないため、土木サイドと連携して整備することが重要ではないか。農業サイドと土木サイドのどちらで整備するかにより、令和元年東日本台風規模の災害への対応も異なってくる。宮城県管理の河川改修に係る角田市の財政負担割合は、土木サイドよりも農業サイドによるものが高くなり、その結果、公債費による経常収支比率悪化の大きな要因となっていると考えられるため、国や県への要望等について検討いただきたい。また、角田市をより安全にするためには、ソフト面も含めた別角度からの視点に基づいた取組みも入れていただきたい。

[小湊産業建設部長]

江尻排水機場改修の件は、一昨年台風災害の雨量 404 ミリに対応するため、どのような基準で見直していくかということ農政局と協議しており、宮城県にも一定の負担を求めるかたちで相談しているところである。場合によっては国土交通省との調整も含め、国や県との折衝を継続し、要望活動に取り組んでいく考えである。

[齋藤(勤)委員]

雨量の捉え方については、一昨年台風災害の雨量 404 ミリは阿武隈川の佐倉側にある国土交通省の事務所前で計測されたものである。一昨年台風災害で問題となったのは西側の山の方の雨量であるため、404 ミリという数値を基準とするべきではないと考える。

[加藤委員]

【資料 2-3】重点プロジェクト③の施策の内容 4 の「道の駅を拠点とした地域経済の活性化」について、「拠点」というのが、中心に据えるということなのか、活動の足掛かりになるということなのか、分かりづらい表現であると感じた。もちろん道の駅が交流人口拡大、観光事業において重要な役割があることは理解するが、地域経済の活性化は道の駅だけで出来るわけではないことから、このような表現ではなく、例えば、「道の駅とまちなか商店街の連携による地域経済の活性化」といった表現の方が良いのではないかと検討していただきたい。

[武智委員]

第 1 回の審議会終了後、黒須市長に、「この長期総合計画の実現は市長の決意、熱い思いにかかっていると私は思っております。」とお話をしたところ、「おっしゃる通りです。」との答えをいただいた。そういう決意が市の職員にも伝わって実現されるものとする。この計画を実現すれば誰でも住みよいまちになると思うので、その辺りについて、市長の思いを伺いたい。

[黒須市長]

今回の計画策定にあたり、様々なご意見をいただきながら、我々も頭を悩ませながら進めてきた。ベースとなるのは、市長としての毅然とした、ぶれない意思であり、達成するという決意であると思っている。目的を達成することを大きな目標としてこの計画の策定を進めており、計画策定後はこれをしっかりと運用して結果を得たいと思っている。また、そのことを市民の皆さんにも訴えていきたいと考えている。そのためにも、やはり市民の皆さんの力を発揮していただく環境づくりが大事であり、我々はしっかりとそれをプロデュースできるよう、その方法と方向性について、しっかりと審議会の皆さんからご意見をいただきながら、固めていきたい。

⇒ 以上の意見等を踏まえ、再度検討の必要があるとされた箇所を除き、概ね事務局の説明のとおり進めることで、この議事について承認された。

## 6 その他

特になし。

## 7 閉会

第6回角田市長期総合計画審議会委員出席者名簿

令和3年8月6日

No.	役職	氏名	所属等	構成区分	備考
1	会長	柳井 雅也	東北学院大学 教授	知識経験者	
2	副会長	安藤 由紀子	角田市医師会	知識経験者	
3	委員	遠藤 恵美子	角田光の子保育園 園長	知識経験者	
4	委員	遠藤 摂子	社会福祉法人 あけの星会 理事長	知識経験者	欠席
5	委員	遠藤 尚志	大河原地方振興事務所 地方振興部長	知識経験者	
6	委員	上條 徹	アイリスオーヤマ(株) マネージャー	知識経験者	欠席
7	委員	菊地 恵美子	みやぎ仙南農業協同組合 理事	知識経験者	
8	委員	齋藤 善宏	日立Astemo(株) 人財統括本部 HRシェアードサービス部 宮城総務課 課長	知識経験者	
9	委員	菅原 満	国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 角田宇宙センター 角田管理課 課長	知識経験者	
10	委員	戸田 宏士	戸田宏士司法書士事務所	知識経験者	欠席
11	委員	一柳 知秋	七十七銀行 角田支店 支店長	知識経験者	欠席
12	委員	堀米 荘一	合同会社あぐりっとかくだ 代表社員	知識経験者	
13	委員	松本 篤志	連合宮城仙南地域協議会 角田地区会議 議長	知識経験者	欠席
14	委員	砂金 甚一	角田市社会教育委員	公共的団体の役員	
15	委員	遠藤 清子	角田市民生委員児童委員協議会 西根地区会長	公共的団体の役員	
16	委員	小野 孝子	角田市統計調査員協議会 会計	公共的団体の役員	
17	委員	小野 陽子	角田市各種女性団体連絡協議会 会長	公共的団体の役員	
18	委員	加藤 泰彦	角田市商工会 会長	公共的団体の役員	
19	委員	日下 三郎	角田消防署 署長	公共的団体の役員	
20	委員	齋藤 勤	角田市環境衛生組合連合会 前会長	公共的団体の役員	
21	委員	島津 恵美	角田市民生委員児童委員協議会 主任児童委員部長	公共的団体の役員	
22	委員	高野 絹子	角田市商工会 女性部 副部長	公共的団体の役員	
23	委員	高橋 輝昭	角田市行政区長連絡協議会 会長	公共的団体の役員	
24	委員	武智 照道	角田市行政経営推進委員会 委員長	公共的団体の役員	
25	委員	毒島 弘美	角田市教育委員会 委員	公共的団体の役員	欠席
26	委員	毛利 良子	角田市芸術文化振興会 顧問	公共的団体の役員	
27	委員	渡邊 峰雄	角田市スポーツ協会 理事長	公共的団体の役員	

第6回角田市長期総合計画審議会における策定本部・事務局出席者名簿

令和3年8月6日

策定本部

No.	役職	職	氏名	備考
1	本部長	市長	黒須 貫	
2	委員	総務部長	中村 方彦	
3	委員	市民福祉部長	高橋 正明	
4	委員	産業建設部長	小湊 洋司	
5	委員	教育次長	玉渕 和紀	
6	委員	財政課長	大槻 信一	

事務局

No.	職	氏名	備考
1	まちづくり政策課 課長	木村 信幸	
2	まちづくり政策課 課長補佐	齋藤 学	
3	まちづくり政策課 企画調整係 係長	齋藤 謙	
4	まちづくり政策課 企画調整係 主査	渡辺 寛大	
5	まちづくり政策課 企画調整係 主査	安達 宗平	
6	まちづくり政策課 企画調整係 主事	佐々木 あづさ	

角田市第6次長期総合計画策定支援業務委託業者

No.	職	氏名	備考
1	七十七リサーチ&コンサルティング(株) 調査研究部 部長	山下 勝善	